

## 教育長室からのお知らせ No.52(令和元年 11 月)

### 『真っ直ぐに受けとめること』

本年度の市川市教育実践論文『いぶき』の応募が先月18日にとりまとめられました。これから来年1月にかけて校長・園長、大学教授や教育委員といった専門の方々によって審査が丁寧に行われ、受賞者を決定していきます。本年度は一般部門8編、フレッシュ部門7編の合計15編の応募となりました。昨年度の応募が一般部門10編、フレッシュ部門7編の合計17編でしたので、教職員が常に自身の実践に磨きをかけているその一端が、こうした継続的な応募となっているのだと大変嬉しくまた頼もしく思います。

応募の動機はそれぞれだと思いますが、今回応募された教職経験5年目のある教員は「まもなく5年を終えるので、来年度は他市経験の希望もあるのでこれまでの実践を振り返ってみることにしました」とその動機を語ってくれたそうです。私が経験5年目ほどの頃は、「自ら進んで教育実践論文を書いてみよう」などと思ったことはなかったので、こうして若い教員が高い志をもって努力している姿は本当に素晴らしいと思います。

ちなみに、私の場合を振り返ってみますと・・・文章を書くようになったのは、教育行政に異動した際に研究報告書や雑誌等への寄稿、論文の執筆を職務として依頼されるようになってからのことでした。それまでは理科教育に取り組んできたので、特別活動や道徳などを担当して文章を書くなどということはまったく初めてのことで、とにかくつらかったことを覚えています。新しいことに取り組むというのは、本当にしんどいことです。

この時からそれまでの自分の努力不足を取り返そうと思い、「書かなければならない文章は断らずに必ず書く」という気持ちになって、これまで依頼された論文はできるだけ断ることなく書いてきました。何本もまとまって依頼が来てしまった時は本当に根をあげてしまいそうになりましたが、何とか断らないで一つ一つやり遂げてこられたことで、自分の「決意」とでも言えるようなものにすることができました。内容がどうであったか自信はないですが、こうして断らずにやってくることができたのには、私の場合は良き先輩や同僚の影響がとても大きかったと思います。先輩や同僚からは、「あなたに信頼と期待をもって頼んでいるのだから、それに応えないと！」と助言をいただきました。「従順であれ」ということではなく、「実行し

て、真っ直ぐに経験を積んでいきなさい」という意味だったのだと思います。これまで執筆依頼をできるだけ断らないようにしてきたのは、「すべて正面から受け入れる姿勢を大切にしなさい」という先輩や同僚からの教えがあったからだと思います。

私たちは、日々小さな決断をして生きています。その決断にあたっては、知らず知らずにこれまでに会ってきた人の人生から学んだことや、今を支えてくれている家族や友人・先輩・同僚たちからの愛情や励ましなど、様々なメッセージを受けとめながら決断を積み重ねているように思います。一つ一つのメッセージの中から勇気や慰めを感じ、もう一歩先にあるたくましい自分へと日々歩みを進めているのかもしれませんが。ですから、より良い自分を創ることができるメッセージに溢れた環境に居ることができたら幸せですし、逆に自分自身が良いメッセージを発する環境を創ることができていたら人を幸せにできていることであるのかもしれませんが。

昨年度の『いぶき』のフレッシュ部門「優秀賞」を受賞した2人は新規採用の教員でした。応募のきっかけは校長からの「書いてみませんか」という声かけだったそうです。「期待」というメッセージを込めた声かけと、それを真っ直ぐに受けとめた教員の決断が一つの前進をつくりあげたのだと思います。私も「より良くなりたい」と思っている一人です。「良いメッセージ」を人に発することができるように努めたいと思うと同時に、人とのふれあいを通して「良いメッセージ」をこれまで以上に受け取っていきたいと思っています。『いぶき』の応募がとりまとめられたということから、あらためてそんなふうに思いました。

教育長 田中 庸恵